

平成 28 年度第 7 回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成 28 年 11 月 21 日 (火) 18:30 ～ 21:00

【場 所】 みなくる

【出席者】 12 名 (15 人中)

役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
会長	佐 藤 勝 彦	○	委員	小 山 玲 子	○	委員	中 井 健 太	
副会長	渡 邊 教 円	○	委員	今 光 江		委員	平 賀 敏 和	○
委員	大 内 さつき	○	委員	坂 本 悌 生	○	委員	前 田 和 也	○
委員	大 黒 利 勝	○	委員	柴 田 志寿子	○	委員	築 田 敏 彦	○
委員	小笠原 英 史	○	委員	柴 田 肇	○	委員	吉 田 美 香	

※正副会長を除き、あいうえお順

本 庁 ～ 企画経済部渉外調整担当 松田部長・中西参事・吉田アドバイザー

支 所 ～ 西田支所長・田村市民福祉課長・沼倉隊員

事務局 ～ 高田地域振興課長・相原主幹・渡部主査・中村主任

(地域振興課)

【傍聴者】 2 名

- 【次 第】
1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 情報交流 (リラックス タイム)
 4. 協議事項
 - (1) 地域振興事業の提案について
 - (2) 地域おこし協力隊について
 5. 報告事項
 - (1) 厚田区自治連合会との情報交換の結果について
 - (2) 「道の駅」建設の進捗状況について
 6. 次回の日程について
 7. 閉会

1. 開会

【(厚) 地域振興課 高田課長】

皆さんお晩でございます。第7回の協議会を始める前に、今日は今委員、中井委員、吉田委員の3名から欠席の連絡を受けておりますので、報告させていただきます。

それでは、第7回厚田区地域協議会を開催いたします。佐藤会長、開会のご挨拶をお願いいたします。

2. 会長あいさつ

【佐藤会長】

お晩でございます。

ちゃんと声が出るようになりました。前回は大変ご迷惑をお掛けしました。2ヶ月会わないと、随分会わないと思ってしまいます。やはり毎月皆さんのお顔を拝見して、繋がっているな、と実感が無いといけなかったと思います。体調はなるべく万全にして、月1回の協議会に出席できるように気を付けていきます。今日は報告事項と協議事項が多くありますので、私の挨拶は簡単にしまして、早速次第に入りたいと思います。

3. 情報交流 (リラックス タイム)

4. 協議事項

【佐藤会長】

それでは協議事項に入らせて頂きます。よろしくお願いします。

地域振興事業の提案について

【(厚) 地域振興課 相原主幹】

皆さんこんばんは。地域振興課の相原です。

厚田アクアレーン水彩画展実行委員会から、厚田水彩画展芸術文化振興事業の実施について、基金活用の要望が出されています。

この厚田地域基金を活用した地域振興事業は、石狩市厚田地域づくり基金と、並びに補助金の要綱によって、厚田区地域協議会の意見徴取、それから最長3年まで、アクアレーンの場合は2年に一度の開催ですので、最長6年までの期限が定められています。期限を超えて基金を活用する場合は、期限ごとに事業の総括と妥当性の検証が求められます。これがルールになっています。

この後、実行委員会からのご提案を受けて、この場で協議して頂くこととなりますので、宜しくお願いします。

【佐藤会長】

それでは、アクアレーン水彩画展につきまして、大黒実行委員長からお願いします

【厚田アクアレーン実行委員会 大黒実行委員長】

皆さんこんばんは。

アクアレーン水彩画展芸術文化振興事業について、提案させていただきます。

平成24年からスタートしまして、本年で第3回展が終了しました。お陰様で、この水彩画展には全道のみならず全国からも出品がありまして、すごく充実した水彩画展が実施できたものと思っています。

開催に当たっては地域住民や地域振興団体、そして協賛頂いた企業・団体のご支援、ご協力を頂き、そして地域振興基金も活用させて頂きましたことに対して、改めて御礼申し上げます。

第3回展までの成果ですが、延べ出品者数は306名、作品総数は390点、そして展覧会来場者総数は3,175名となり、この事業を通して多くの方々が厚田を訪れ、厚田の良さや魅力を伝えることができました。また区民・市民の方々には数々の優れた作品に触れる機会を「厚田の地」で提供できたと思っています。

アクアレーン実行委員会では第4回展に向け活動していくわけですが、この事業を通して、これまで以上に厚田の地域振興に貢献し、多くの区民が水彩画に触れ・親しみ、関わっていただけるような事業となるよう、別添の資料1に記載しています通り、アクアレーン水彩画展を通じて近況遠来のまちづくりに貢献できるように3つの方針を掲げその実現に向けて協議を重ねています。

基本方針の1点目の「区民が気軽に優れた芸術に触れ、芸術活動に参加する機会を提供したい」の部分ですが、具体的には、区民向けの水彩画教室や、これまで買取った作品を区内の施設や学校などで展示して頂き、皆さんにもっと見てもらえるようなことを考えています。

基本方針の2点目の「区民が厚田の美しさを再認識し、その素晴らしさを外部にPRしたい」の部分ですが、例えば厚田を題材にした厚田賞を新設し、多くの方が厚田を題材にした作品を出品して頂けるような形を考え

ています。

それから、3点目の「出品者（作者）にエールを送り、このことをきっかけとして厚田のファンになってもらい、交流人口を増やし地域経済に貢献したい」の部分ですが、たとえば、スケッチツアーを開催して厚田に足を運んでもらい、厚田の魅力を知ってもらうと同時に、厚田区内のお店も利用してもらえるようなことを考えています。

4回展に向けて、これまでも開催を重ねる毎にコスト削減・事業費の縮減など、事業の自立に向け模索してきましたが、収入となる出品数や図録売上が伸びず、企業や団体への協賛のお願いもしてきましたが、現状では全てを賄うことは難しい見通しとなっております。

つきましては、第4回展において基金を活用したく、次年度は作品募集の年となることから、ポスター等の印刷製本費やPR費など一連の活動経費として、事業費40万円の2分の1にあたる20万円について基金を活用させて頂きたいと思っております。

この事業が全国から集まる素晴らしい作品に触れる機会となり、地域の方々が活力を得られる事業となるよう実行委員一同、引き続き協議検討を重ね準備を進めたいと思っております。

以上、私からの提案とさせていただきます。ご審議の程よろしくお願いします。

【佐藤会長】

はい。ありがとうございます。

いま、大黒実行委員長から、第4回の水彩画展について、基金の利用について提案がございました。今の提案について、委員の皆さんからご意見、ご質問がありますでしょうか。

まず提案に対しての質問はありますでしょうか。どうでしょうか。

予算要求額が20万円ですね。これらにつきましてもどうぞご質問、ご意見頂ければと思います。

アクアレールの実行委員会には築田委員も参加していますよね。ご意見ありましたらどうぞ。

【厚田アクアレール実行委員会 築田副実行委員長】

今、会長からご説明させて頂きましたように、これまでは水彩画展を実施することを重点に活動してきましたが、作品の完成度が回を重ねるごとに高くなったことによって、逆に気軽に出品できなくなってきたと考えています。また、絵が大きすぎるために、飾るところを選んじることが課題と考えています。このため、第4回展からはもっと多くの人が参加できるような形で開催したいと考えています。例えば、イキイキハビリや小学校などで、大黒会長が水彩画教室を開催したり、区民の方がもっと水彩画に親しむことができる環境を提供しないと、長くは続かないのかなと感じています。このことから、先ほど会長から様々提案させて頂きましたので、ご審議の程宜しくをお願いします。

【佐藤会長】

ありがとうございます。

確かに第三回までの実施において、素晴らしい絵が集まってきていますね。そして展示会に見に来ている人がその絵に対して素晴らしいと感動していることは良いことですが、一方でレベルが高いために出品を躊躇してしまう人も多いと思います。素晴らしい絵が集まることは喜ばしいと思いますが、一方で地域振興という部分で考えると、もっと裾野を広げることが重要だと思いますし、この点について大黒委員と築田委員からご説明がありました。

厚田の子供たちが、厚田の素晴らしい自然を絵に表現することも大切だと思いますし、この素晴らしい自然をあまり見たことのない札幌の子供たちにサマースクールなどで、水彩画の指導をして、出品してもらうことで、裾野が広がります。裾野が広まることで、厚田の素晴らしさがPRでき、地域振興に繋がると思います。

この地域振興と言うのは、2つありまして、1つは経済活動ともう1つは文化活動ですね。どうしても経済活動に目が行きがちですが、車の両輪のように、文化活動の振興が経済活動に匹敵するほど重要であります。水彩画を通じた裾野の広がりが文化活動の振興にも成りますし、多くの人に厚田をPRできるので、交流人口の増加にも繋がると思います。

それでは、アクアレール実行委員会からの提案については承認ということでよろしいでしょうか。

各委員：異議なし

それでは、2点目の協議事項であります地域おこし協力隊について、よろしくお願いします。

地域おこし協力隊について

【(厚) 地域振興課 相原主幹】

平成26年から導入した地域おこし協力隊の制度も3年目を迎えました。これまでの検証と今後について検討することで、第三回の地域協議会場でご推薦を頂いた、佐藤会長と前田委員、そして、農業の関係として小笠原委員、そして町内会の関係として大内委員にメンバーとして検討を進めて頂きました。この検討委員会

から出された意見と、支所内での検討を踏まえて、資料2にまとめていますので、ご説明いたします。

まず、導入のところで、平成24年の9月度の地域協議会で協力隊を導入しても良いのでは、という提案がされて、平成25年に検討会が発足しています。募集に際しては「隊員のフレッシュな視点、感性を活かす」、「地域の活動団体や町内会などと主体的に関わる」、そして「起業・定住を意識し、自主的に地域活動の企画・実践する」ということを掲げて募集し、2名が着任しました。

着任後2年半が経過しましたが、検討委員会では個人の活動ではなく、地域への影響に着目し、検証をして頂きました。検証結果としては「地域や団体と共に様々な活動をしていた」「お祭りや学校行事など地域の活動にも積極的に参加していた」、そして「団体の中に新たな動きや、人への作用が見られた」「最長3年だが、起業や定住のプレッシャーは大きいだろう」という意見が出されました。

総括しますと「導入して良かったため、今後も導入してはどうか」との意見や、導入に際して人数は2名ではなく思いきって例えば5名など大人数で導入すると、隊員同士のネットワークによりもっと面白い活動が期待できるのでは、との意見がありました。このような意見を踏まえて、支所としては来年度からは継続導入の方向で考えたいと思っています。また、活動状況については、これまで通り、隊員の感性や視点を重視しながら、「道の駅」の活用や十字街を初めとする区内への周遊に向けて、キーワードを「食」、「アウトドア」とし、この2点について関連を持てる方を人材として募集したいと考えています。人数については、受け入れの環境などを考慮すると当面は2名として、将来的に状況をみて増員する方向でも考えています。

そして、着任した隊員が最終的に定住定着できなかったとしても、隊員が与えた地域への影響も重視しながら検証をしていきたい、と考えていますので、このような方向性について協議の程よろしくお願ひします。

【佐藤会長】

ありがとうございます。

この地域おこし協力隊は、現在3年目に入りまして、次の協力隊の募集をどうするか、というところから検討を始めまして、今説明がありましたとおり、その検証結果を踏まえて、次回の募集について方向性が示されています。

この協力隊は、総務省で実施しているわけですが、全国的には相当の人数の協力隊員が、地域活性化に向けて活動しているわけで、全国事例を調べて見ますと、成功と失敗のポイントが分かってくるわけで、厚田での導入は成功例の中に入ると思われます。

失敗例としては、隊員がその地域に入っても何をして良いか分からず、そのまま任期を終えてしまう。だからといって、地域でやって欲しいことを、なんでも協力隊に要望して、任期を振り返ったときに、地域の便利屋だったのか、一体自分は何がやりたかったのか、その主体性がないままに、任期を終えてしまう。これが失敗例の最たるものです。

厚田の様に、隊員が主体的に地域の中に入り、そして地域課題を見つけ出して、それを自分の将来の仕事にしていけるように、主体的に活動していくことが、成功を導き出して行くポイントといわれています。

失敗した例の中で、一番多いのは、役所の中に組み込まれて、いわゆる役所の補助員の様な形で活動した場合です。

厚田の場合は、受け皿としては役所ですが、どのような人材をどの程度導入するか、ということを経営と共に考えているわけで、導入の成功に重要なポイントは、地域にどれだけ入って、やるべきことを地域の人と見つけられるか、ということですね。ですから、まずはこういう人材が欲しい、とのニーズは役所ではなく地域から出てこないといけないわけです。このため、厚田支所では地域の人から広く要望を出してもらうために、委員会という形で、検討しているわけです。

今回は食とアウトドアに関することに対して、意欲のある人を募集しようということですね。人数はまず2名ですが、委員会の中では5名導入の意見も出されていきました。5名だと、グループの中で相乗効果が生まれ、活動が活性化する事例があります。その事例として岡山県の実美（みまさか）市があります。ここは少子高齢化で限界集落があります。協力隊の導入によって荒廃していた棚田が徐々に復活しています。ここには協力隊は現在10名活動していますが、最初は2名から始まり、この2名と一緒に活動する人を連れてきた結果であります。棚田を復活させ、観光資源にしていますが、これらの活動には役所はほとんど関与しておらず、協力隊員の地道な活動とその熱意によって、地域と一緒に頑張って応援しているようです。隊員の主体性はもちろん大切ですが、地域が隊員のやる気をどのように引き出されるか、これが成功事例の共通点ですので、厚田でも地域のサポート体制が重要だと思います。

それでは、地域おこし協力隊員を2名導入すること、そして、必要に応じて徐々に人数を増やしていくことに対して、いかがでしょうか。

【坂本委員】

十字街の活性化が一例として出されていますが、まずはなぜ十字街がこのような形になっているのか、その原因をきちんと検証することが重要だと思います。地元の人でもあまり十字街を利用していない中で、協力隊員の活動に対して地域のサポートが大切と言われても、サポートする側の地域住民が十字街を利用していないので

あれば、どのようなサポートができるのでしょうか。要するに、漠然と十字街の活性化などというテーマではなく、問題を掘り下げて、その原因と具体的な方向性を示した上で人材を募集する方がよいと思いますが、いかがでしょうか。

【(厚) 地域振興課 高田課長】

説明が不十分だったかもしれませんが、協力隊員の導入によって十字街の活性化のみにこだわっているわけではなく、道の駅に訪れる人をどのように区内に周遊してもらえるか、がポイントと考えています。もし、協力隊員が十字街の活性化を目的実現の具体策として取組むのであれば、坂本委員が言われたように、当然その原因の掘り下げから行い、隊員が具体策まで考え実行していく形になると思っています。

もちろん、十字街以外もあると思いますが、まずは隊員が現地に来て、地域課題を把握することから始めてもらうことになりますが、やはり厚田には豊かな食材や自然がありますので、人材募集に際してはキーワードを「食」や「アウトドア」として、この部分からの地域振興で能力を発揮できる人に来てもらいたいと考えています。

【佐藤会長】

以前から課題として挙げられていた十字街の活性化については、まずは交流人口を増やすことが第一歩。道の駅はゲートウェイとしての位置付けですから、道の駅に訪れた人を周遊させることが必要です。周遊させる上で地域の人には無い新たな視点で協力隊員に取り組んでもらうことが導入の目的の一つとしてあると思います。

成功事例でシャッター街の活性化がありましたが、これもやはり地域の人には無い新しい視点で協力隊員が活動した結果でありまして、厚田には豊かな食材や自然など、磨けば光る原石が沢山ありますが、協力隊員の力を借りながら地域の活性化を図ろうというのですが、いかがでしょうか。

【大黒委員】

私も、以前3年という期限の中で、地域おこしに携わったことがあります、その時は教育委員会の事業としてやっていましたが、一番苦労したのが地域に溶け込むことでした。地域に溶け込むことができないと、地域課題を把握できませんし、活動が中途半端になりますので、面接の時には、その人の経験や知識など考慮すべき点は多くあると思いますが、地域に溶け込むことができる能力を特に重視して欲しいと思います。

【佐藤会長】

大黒委員から面接に関して意見が出されました。確かに面接だけでその人を見抜けるかということ、中々難しい面もありますが、私は面接に際しては行政職員だけではなく、欲を言わせてもらえば地域住民も入るほうがよいと思っています。協力隊員のモチベーションの維持も大切ですが、住民のサポートに対するモチベーションの維持も同じくらい重要で、住民も面接に入ることができれば、住民のニーズに合う人材の採用に繋がります、採用した後も責任をもってサポートしていけると思います。

【渉外調整担当 吉田アドバイザー】

先ほどの坂本委員の問題提起はすごく大事なことを言われていると思いました。

十字街に関して言えば、十字街がなぜこのような形になっているのか、という深層心理の部分をやはりはっきりさせないと、導入する協力隊員に活躍してもらうのは難しいと感じています。

言葉を選ばずに大変失礼な言い方になりますが、もちろん各店舗の努力が足りなかったと思いますし、それを束ねる商工会、地域住民、そしてそれを見送ってきた市役所にも責任があると思います。最近、次期アメリカ大統領のトランプさんがよく言っている保護貿易主義で、By アメリカンという言葉が出てきますが、厚田区の住民は By 厚田でよいと思っていますし、関係者が努力を怠ったつげが出ていると思っています。それぞれがそれぞれの役割を認識し、やるべき事やっていくことが重要ですし、各店舗はどうしたらもっと地域の人に利用してもらえるか、例えばキャンペーンを実施し、商工会はそれをバックアップする等もできますと思います。当然そこには十字街を将来的にどのようにしていくのか、というグランドデザインが必要で、そこにはおそらくプロフェッショナルな人材が必要であろうと考えています。

協力隊員を道の駅の運営会社にどうだ、という発想もあると思いますが、道の駅の運営会社としては、やはりお客様に対しての責任と共に、地域に対しての責任もあると思っています。その責任をちゃんと果たしていけるプロフェッショナル人材しか雇えないなと思っています。皆さんが仮に事業者であった場合、人を雇うというのはすごい責任が発生しますよね。それと同じです。

例えば、航空会社では大きな投資案件に航空機の購入があります。中古で30億円くらい、新品で200億円くらい掛かります。この他に飛行機を飛ばすための人員が必要になります。一人の操縦士を支えるのにクルーなどの人件費が4千万円くらい掛かります。これらは将来に対する大きな投資です。ですから、人材を採用することは、地域にとって責任がある、ということと同時に地域に対する投資である、ということです。ですので、採用に至るまでのことはとても重要になりますし、同時に採用後にどのような分野で特性を活かして活動してもらいます、ということ具体的に考えていかないと、優れた人材は集まって来ないと思います。

そういった意味において、人を採用するということは地域にとっても、その人の人生にとっても、ものすごい責任が発生することを感じて頂きたいな、と思いますし、私はすべて人で決まると考えています。人が全て

です。道の駅としても色々な形で人を地域に周遊させるよう努力していきませんが、その努力も結局は人が行くことですので、道の駅としてもそのような人材に来てもらえるように取組んで行きたいと思っています。

【佐藤会長】

ありがとうございます。

いまの吉田アドバイザーのお話を一言でまとめてしまうと、やはり主役は地域住民で、協力隊はあくまでも裏方なのですね。私たちは、どうしても発言していると協力隊を主役にして地域住民を脇役にしたような内容になりがちですが、これは逆ですね。地域、すなわち十字街の人達が何を望んでいるのが重要になってきますね。ただ、十字街の原因は様々あると思いますが、要するに訪れる人が少ないことが挙げられます。人が来ないから商品などに投資ができず、悪循環になるわけですね。地域住民にしても、厚田区の特徴である便利な田舎であるために、車がある人は花川や札幌に行ってしまう。どうしたらよいか、を考えたときに道の駅により交流人口が増えますから、これを活かさない手はない、ということになります。

率直な意見を含めて、他に何かありませんでしょうか。

【柴田肇委員】

先ほどからお話が出ていた十字街の件ですが、道の駅の検討の出発の時から、道の駅を重点に協議していたので、十字街に焦点を絞った協議は十分にはできてこなかったと思いますが、これからについては、やはり十字街の方々が、今後どのようにしていきたいのか、意見交換をしながら、将来のビジョンをしっかりと固めて行かないと、今のままでは漠然としていて、中々前には進めないと思います。

元気になる会がいろいろやっていたようですが、これからは具体的に考え、何を目指すべきかを整理する時期に来ていると思います。その上で、協力隊員に何を担ってもらうか、考える時に来ていると思います。

【佐藤会長】

ありがとうございます。

今年は厚田漁港で新たに朝市食堂を開催していますので、その経過や協力隊に期待することなどについて、高田課長からなにかありませんか。

【(厚) 地域振興課 高田課長】

朝市食堂の試験営業は、近年朝市に来る人が少なくなっている、との声や、十字街への周遊人口の増加に向けては、何らかのイベントが必要との意見もあり、本年から新たに取組んだ内容になります。

朝市へのお客さんが増えれば、十字街も含めて地域がもっと活性化すると思っている人は多いのですが、実際には漁業関係者にとっては、人手が足りず朝市食堂などのイベント開催は難しく、最終的には地域住民によって試験営業した経過があります。

地域おこし協力隊については、これまで地域の課題について新たな視点での問題提起や、主体的な行動によって、今までには無い活動が展開された部分もあり、地域の活性化にむけて一定の成果があったのではないかと考えています。十字街に限らず、厚田区全体の地域振興に向けて、今後も地域おこし協力隊の制度を活用できればと考えています。

【佐藤会長】

ありがとうございます。

委員の皆さんから他にご意見やご質問ありませんでしょうか。

【築田委員】

十字街についての意見が多く出されていますが、元々の議題は地域おこし協力隊の導入についてですので、そのことに対しては、次年度での新たな2名の導入について賛成でございます。

また、意見としては、厚田区内での旬な情報を発信して頂ける人材に来て欲しいと思います。例えば、今の時期はハタハタが獲れています、私の近所の人は、わざわざ札幌まで行ってハタハタを買って来ているようです。厚田の人が地元のものをもっと食べられるように、いま何処で何が獲れているのか、そしてそれは何処に行けば買えるのか、更に欲を言えば自宅まで届けてくれるような仕組みまで作ってくれる人が来てくれれば、すごく嬉しいと思います。

【佐藤会長】

他の委員の方はどうでしょうか。

それではご意見など多く頂きましたので、ここで改めて問題を整理したいと思います。

まず、次年度に2名の協力隊員を新たに導入することに対する是非。

そして、新たに導入した協力隊員に何をやってもらうかに対する内容。

この2点について、いかがでしょうか。

【渡邊副会長】

次年度に2名の協力隊員を新たに導入することに対して賛成です。

そして、何をやってもらうかについては、十字街についてのご意見が多く出されていましたが、十字街にとらわれず、道の駅完成により増加する交流人口の区内への周遊について、ということによろしいと思います。

【佐藤会長】

それではよろしいでしょうか。

各委員：異議なし

5. 報告事項

【佐藤会長】

それでは報告事項に入ります。

それでは高田課長よろしくお願いします。

厚田区自治連合会との情報交換の結果について

【(厚) 地域振興課 高田課長】

自治連合会との意見交換などについて、私の方から報告させていただきます。

地域の現状や課題など広く引き出そうと、地区毎に意見交換会を実施しました。

この意見交換会には5地区、延べ60名の方に出席を頂き、その結果をまとめたものについて11月14日に5連の会長会議の中で報告し協議した結果について、本日報告させていただきます。

まずは、資料に記載しているのは、街灯のLED化や買物など7項目になりますが、この他にも各地区から示された課題については、関係部署含めて整理していくことになっています。

まずは、街灯のLED化の部分ですが、町内会の財政状況が厳しくなっていく中で、町内会費に対する街灯費用は電気代や維持費を合わせると、半分程度を占めている状況です。この部分について、支所からLED化による経費削減を、具体的なシミュレーションを地区ごとに提示しながら、提案したところでございます。協議の結果、聚富地区は既に全ての街灯をLED化していますが、他の地区についてはLED化したい意向が確認できたものの、初期投資含めて市の補助もあります、自己負担が発生しますので、この部分で財政上の問題から中々取組めない状況があります。今後の方向性については、5連の会議において、町内会が管理している街灯はLED化していくことで確認され、財源の課題については、現在支所内で検討している段階です。

次に買物の部分ですが、JA店舗がなくなった影響は(厚田区)北部の方が大きく、反対に(厚田区)南部はあまり困っていない状況で、またトドックなどの民間サービスの活用が進んでいる状況です。今後は民間による新規参入などにより解決を図っていこうという方向性となっています。

次に交通の部分ですが、買物と同様に北部ほど不便を感じている状況が分かりました。また将来の不安を感じている人も多いことが見えてきました。今後の方向性については、中央バスがなくなるということではなく、将来のあらゆる事態に対応できるよう、地域交通の検討に取組む、ということで確認されています。

その他についても、資料の内容となっており、特に緊急性の高い案件については、別紙の資料に記載した内容で今後取組んでいくことで確認されています。

今後も都度進捗状況をご報告させていただきます。

【佐藤会長】

今の点について、何かご質問などございませんでしょうか。

【小笠原委員】

本日の資料は他の町内会の取組内容などが整理されており、今度は報告会としてこの資料を各地域で説明してもらえるとありがたいな、と思いました。また、欲を言えばその際に道の駅との関わり方や地域活性にむけて問題提起してもらえると町内会の中でも色々動きが出てくるのかな、と思いますので、検討して頂ければと思います。

【佐藤会長】

それでは次の報告事項に入ります。

よろしくお願いします。

「道の駅」建設の進捗状況について

【渉外調整担当 中西参事】

道の駅の状況についてご報告させていただきます。

道の駅の整備につきましては、本年度の資料館の解体から始まり、もう間もなく造成工事が終了する状況です。それと平行して行ってきた実施設計もほぼ完成に近づいており、それを示したものを資料としてお配りさせていただきました。

建物の外観デザインについては、以前道の駅便りでお示したデザインとほぼ同じでございます。全体的な色合いについては、黒をベースにして格調と重厚感を重視しています。また、一部には日本海をイメージした青色を使用したいと思っています。また眺望を堪能できるようガラス窓を多く配置する設計となっています。建物自体は3階建てとなっており、3階のバルコニーからも、日本海や厚田の町並みを楽しめま

す。また、3階からはバリアフリーで厚田公園内と行き来できる形になります。また、子供が遊べるスペースも設置します。そして様々なイベントに活用できるようなスペースも用意します。

内装については、厚田とゆかりのある榆の木を使用し木材の風合いを楽しめるように設計しています。

1階部分ですが、ここには24時間トイレと地場産品販売コーナー、そして飲食提供テナントで構成されます。2階部分ですが、郷土資料室や自然歴史展示コーナーのほか、飲食を提供するテナントも3ブース入る予定です。資料室については、これまでの旧厚田村の偉人のほか、厚田を中心にした自然遺産や歴史遺産の展示、そして地形の模型などを設置したいと考えています。3階の地域コミュニティ室では、会議の他に2階の交流スペースも同様ですが、アクアレール水彩画展の作品展示も行える形を予定しています。

また、資料にはございませんが、観光案内所についても道の駅施設の一部としてテナントなどを募集して運営していくことで考えています。

また、看板などの案内標識は英語の他に中国語と韓国語を使用し、そして障害者に対して配慮された施設となるよう設計しているところでございます。

なお、お知らせになりますが、道の駅の設置に際して、関連施設の条例変更や新たな条例の策定などが発生しますので、この点についてパブリックコメント等の市民参加手続きを取らせて頂きますので、ご報告させていただきます。

また、道の駅は新たに市が100%出資する会社が運営に当たることになり、こちらについてもパブリックコメントを募集しますので、合わせてご報告させていただきます。

【佐藤会長】

このことについて、何かご質問などございますでしょうか。

【小山委員】

観光案内所は現在商工会が指定管理者となっていますが、今後は市が管理するということでしょうか。また、その際には商工会は指定管理者から抜けるということになりますか。

【渉外調整担当 中西参事】

厚田公園や道の駅含めた施設全般の管理運営を新会社が行う形になり、観光案内所についてはその新会社がテナントの一つとして募集していくことになり、指定管理者から商工会が抜ける形になります。

【築田委員】

イベント用の広場にある階段には、年配者のことを考慮すると手摺りがあつた方がよいと思いますが、いかがでしょうか。

【渉外調整担当 中西参事】

現状では手摺りは予定しておりませんが、今後の検討課題とさせていただきます。

6. 次回会議等の日程について

日程調整後、後日決定

7. 閉会

平成28年12月19日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会

会長 佐藤 勝彦